

第2回大仙・仙北地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日 時 令和7年3月6日（木） 午後6時から午後8時まで
 2 場 所 オンライン会議
 3 出席委員 委員19名中16名出席（代理出席者を含む。）

氏 名	役 職 等	備 考	氏 名	役 職 等	備 考
三 浦 俊 一	大曲仙北医師会長		寺 邑 敏 彦	花園病院長	
木 村 真 也	有床診療所代表(大仙眼科クリニック院長)		高 橋 武 道	大曲仙北歯科医師会 理事	会長代理
下 村 辰 雄	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター病院長		高 橋 正	秋田県薬剤師会大曲仙北支部長	
藤 原 孝 之	市立大曲病院 事務長	院長代理	河 上 泰 幸	全国健康保険協会秋田支部企画総務部長	
伊 藤 良 正	市立角館総合病院長		佐 藤 義 勝	特別養護老人ホーム「ロートピア緑泉」施設長	
星 野 良 平	市立田沢湖病院長		菅 原 稲 子	大仙市健康増進センター所長	
三 浦 康	大曲厚生医療センター病院長		樋 口 幸 一	仙北市医療局 次長	医療連係政策監代理
加 賀 屋 崇 敬	大曲中通病院 事務長	院長代理	大 澤 修	美郷町福祉保健課長	

4 議事等

(1) 協議事項

① 外来医療計画の推進について

【事務局】

（資料により説明）

【大仙・仙北市医師会長】

- ・病診連携はうまくいっていると考えている。
- ・今後、人口減少が進んだ段階で機能分担をどうするか、病院として病床数を今後どうしていくか検討していく必要があるが、現段階において病院間の連携もうまくいっていると考える。

② 来年度以降の地域医療構想について

【事務局】

（資料により説明）

【大曲厚生医療センター院長】

- ・年末年末年始の救急医療提供体制についてアンケート調査を実施いただき感謝申し上げます。
- ・来年度、地域医療構想調整会議で協議していただけることについて承知した。
- ・この前の年末年始の9連休で、1日当たりの受診者数が180人といった日が、1月2日～4日のあたりに続き、病室が溢れかえったという状況であった。
- ・その患者のほとんどは発熱・軽症患者であったので、できるだけ近隣の病院で発熱外来に取り組みめるように、また、もし可能であれば、医師会の先生方にも可能であれば協力いただきたい。
- ・小児科の先生方は、年末年始に色々取り組んでもらっているので、他の診療科の先

生方も協力いただければと考えている。

(2)報告事項

①地域医療構想に係る医療機関の対応方針について

【事務局】

(資料により説明)

※委員からの意見なし

②病床数適正化支援事業について

【事務局】

(資料により説明)

※委員からの意見なし

(3)その他

【大曲厚生医療センター院長】

- ・急性期から、回復期、慢性期に至る患者の移行について課題があるので、お伝えしたい。
- ・大曲厚生医療センターでは、2月の後半に、コロナ患者の受け入れにより、急性期病床が逼迫する状況となり、その結果、近隣の医療機関の救急患者の受け入れができないということが10日間ほど生じた。
- ・特に脳神経外科を整形外科の患者の入院を止めなければならない状況であった。
- ・地域包括ケア病棟の病床稼働率が日常的に95%以上となっているため、急性期の病床でこのようなことが起こると救急の受け入れを止めなければならない。
- ・急性期経過後の患者について、なかなか次への移行が難しく、転院又は施設に移行するまでに、1週間～20日程度かかる。
- ・近隣の病院や介護施設との連携が今後さらに重要になってくると感じている。
- ・年末年始の診療について、当院としては、中核病院としての役割を果たすに当たって、救急搬送の患者及び発熱の患者でも入院を要する方はできるだけ全て受入れるという体制で臨みたいと思っているが、先日の年末年始のように軽症患者が集中すると、本来診なくてはならない救急搬送の患者を診ることが難しくなる。
- ・入院させるまでもう4時間も5時間かかったりしたので、できれば、軽症の発熱患者に関しては、近隣の病院とまた協力を強化し、可能であれば、開業の先生方に協力していただいて、1施設で、15人から20人を何ヶ所か診ていただければ、当院も救急搬送患者さんに集中できるので、そういう方向の検討・取組が進んでいけばと希望している。

【特別養護老人ホーム施設長】

- ・現在、特別養護老人ホームは比較的入りやすく、一部の特養では、待機者がいない又は非常に少ないという状況である。
- ・施設に入るタイミングが非常に重要であり、そのタイミングがなかなか合わないミス

マッチの状況があるのでは感じている。

・もしかすればショートステイから特養へ転換することがここ数年行われている状況があり、ショートステイの数が緊急時に対応できていないのかなと感じながら聞いている。

【大仙・仙北市医師会長】

・施設の担当を去年までやっていたが、前に比べると、施設の患者の重症度が増している。

・施設の方でも、以前に比べると重症の患者を引き受けるようなケースが非常に増えているが、病院と違って持続的な点滴などの治療ができないので、1週間後に病院に戻ってしまう。

・そういった重症の方が3年前に比べると非常に増えたという印象を受けている。

・ただ、今後は特養の方でも、重症の患者をなるべく診ていかなければならないと、昨年の会議で施設の方にもお話をした。

・また、この地域では、特養でなるべく看取りをやって欲しいなと思ってるが、その看取りをまだやってない又は、看取りまで対応できてないという施設があるので、そういったところに対しては、県全体として看取りを特養や施設の方でできるような働きかけをしていただければと思っている。

【医務薬事課長】

・看取りやACPの関係も含めて、今県医師会に委託している在宅医療推進センターの取組の中で、8つの圏域ごとに医療と介護関係者による研修会の開催等の取り組みを進めている。

・そういった取組の中で、看取りやACPの普及が進めていきたいと考えている。

【大仙・仙北市医師会長】

・過去に医師会の方で休祭日の救急を大曲厚生医療センター内で行っていたが、コロナの時代になって、院内でそのような感染者を診ることが難しくなった。

・センター内で診ていた患者の多くが発熱患者であったので、大曲厚生医療センターの中で発熱患者及び救急患者を診るということはなくなった。

・その1年後に小児科についても、同様の理由でやめになった。

・また、小児科については、日曜日の診療を実施している診療所の先生が日曜日の診療を辞めて大曲更生医療センターに執務していた状況もあった。

・患者の数も少なくなってきたので、大曲厚生医療センターの中で開業医が診療することは辞めましょうということになった。

・どこかで発熱外来を立ち上げれば良いのかもしれないが、具体的な話はまだ医師会の中では出ていない。

・令和元年の10連休の時に、救急が崩壊するのではということから、手挙げをした診療所が診療を実施したことがあったが、その時には診療所に来る患者はほとんどおらず、そ手挙げをした診療所医師が今度こういうことがあっても、私は参加しませんといったこと

もあった。

- ・来年のことは分からないが、医師会として、なるべく年末年始にやっつけられる診療所があれば良いのですが。
- ・例えば、診療所を開けると決めても、従業員の方が出てきてくれない場合もあり、無理に働かせることは従業員が辞めてしまうことにも繋がる可能性もある。
- ・実際、私がお盆のときに、もう1日働きたいなと思っていたが、出てくれる従業員がおらず、結局診療はできなかった。
- ・だから、医師会として、どこかで診療ができるようなことができれば、医師は執務できるかもしれないが、診療所を空けて診療ということを強制することはできないと考える。

【大仙市健康増進センター所長】

- ・先ほど三浦医師会長の方からもお話ありました通りやはり、連休中の救急の体制は大変厳しい状況だということも、前の医療行政懇談会の中でも意見が出たところ。
- ・患者は中核病院である大曲厚生医療センターを受診する傾向もあるので、まず、医師会の先生方の協力もいただきながら、今後検討していかなくてはいけないのではないかと感じている。

【大曲厚生医療センター院長】

- ・診療所はやはり医師だけでは務まりませんし、看護師、事務職員の方のほか、薬局も含めた体制が必要になってくると認識している。
- ・そういった中で、診療所の皆様に協力いただけるかどうかや、どのような体制での協力ができるのかといった所を深めていければと考えている。
- ・やはり一番取り組みやすいのは、病院間の協力であると思っている。
- ・当院としては、救急搬送の患者及び発熱者でも、重症で入院が必要な患者は、とにかくみんな受けるという体制で臨んでいきたいと思っているので、軽症の発熱患者は、20人、25人ぐらいずつでも役割分担できれば、かなり地域の医療がうまく回っていくと思う。
- ・大仙市とは、1月中に1度会議を実施し、その中で、10月中ぐらいまでに、年末年始の計画が決まれば、広報誌に載せることもできるとの話があった。
- ・地域で役割分担をして取り組んでいけるような体制をこの年末も整えていければと考えているので、次の会議も含めて検討を深めていければと思う。

【伊藤アドバイザー】

- ・年末年始の救急についてインフルエンザやコロナウイルスの流行で全県的に各医療機関が大変だったと聞いている。
- ・昔、由利本荘市で休日診療所を医師会が立ち上げたが、経営的な理由等で閉めてた。そこは、医師会の会員の先生と市の職員のほか、看護師はOBの方にやっていただいていた。
- ・コロナの時からあればすごくよかったなと思ったが、そういう方向や輪番制等進めなけ

れば、1つの病院に負担がかかるので、今後検討していく必要があると考えている。

- ・急性期、回復期、慢性期の流れをしっかりとしないと、大曲厚生医療センターに滞留して流れが悪いので、この地域でいろいろ考えていかなければいけないと感じた。

- ・看取りに関しては施設でまだ進んでいないので、在宅医療推進センターが中心となり、介護施設でなるべく看取りが進むように推進していきたい。